

DATA

プロジェクト名	カナダー東北復興プロジェクト
施設名	障害児者支援施設「エリコ」
所在地	福島県いわき市平上平窪
構造	軸組工法
階高	平屋建
敷地面積	11,137㎡ (3,369 坪)
延床面積	438㎡ (132.49 坪)
建築主	社会福祉法人いわき福音協会
設計	(株)松崎設計
施工	山木工業(株)
構造躯体	株ダイテック

カナダ連邦政府、ブリティッシュコロンビア州政府、アルバータ州政府、カナダの林産業界は、2011年3月11日の東日本大震災で被災した東北地域の復興支援の一環として、福島県いわき市で障害児者支援施設の建設を支援することになった。これは450万カナダドルの支援金をもとに、「カナダー東北復興プロジェクト」として推進している支援事業。昨年の宮城県名取市の「どんぐり・アンミなの図書館」、「ゆりあげ港朝市」、今年5月に竣工した「オランダ島ハウス」（岩手県山田町）に引く第4弾として行われる。支援を受けるのは、福島県いわき市に新しく建設される障害児者支援施設「エリコ」。社会福祉法人いわき福音協会と基本合意を昨年10月に締結。同協会は1950年に設立。東北・北海道で初となる肢体不自由児施設を設立するなど、重度の障害を持つ子供たちの養育に取り組んでいる。エリコとは旧約聖書の約束の地にある難攻不落の町の名にちなんでいる。



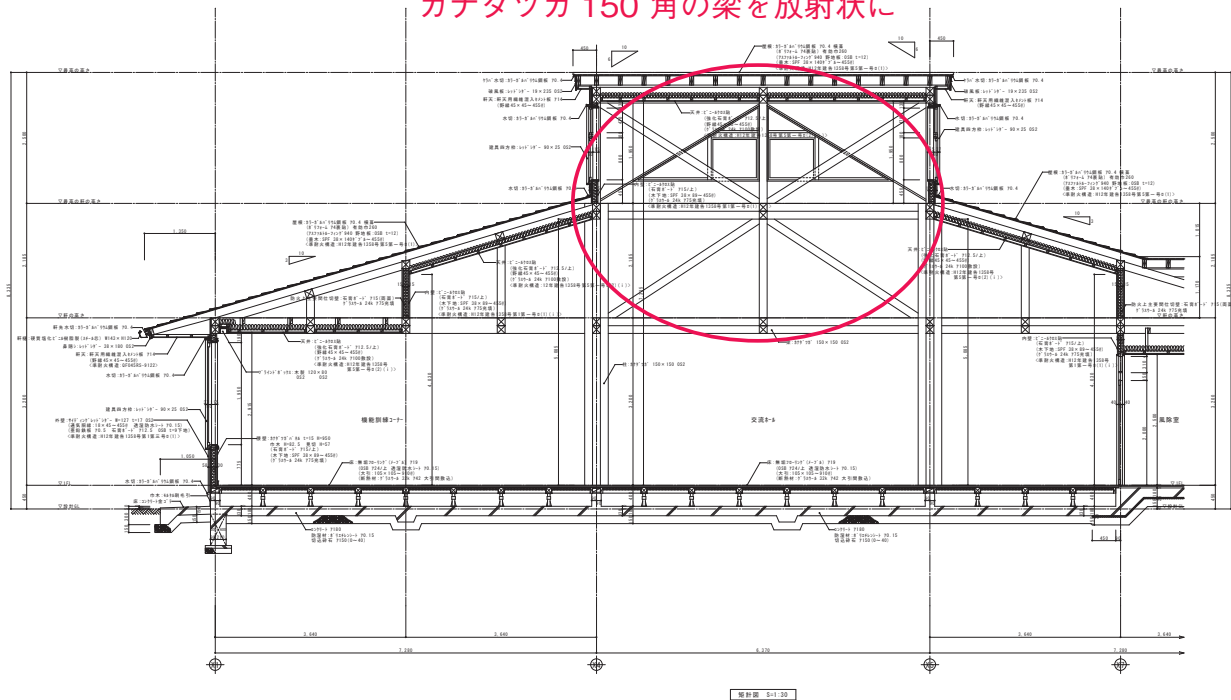
福島県
いわき市

在来工法で150角+2×4材 カナダによる復興支援第4弾

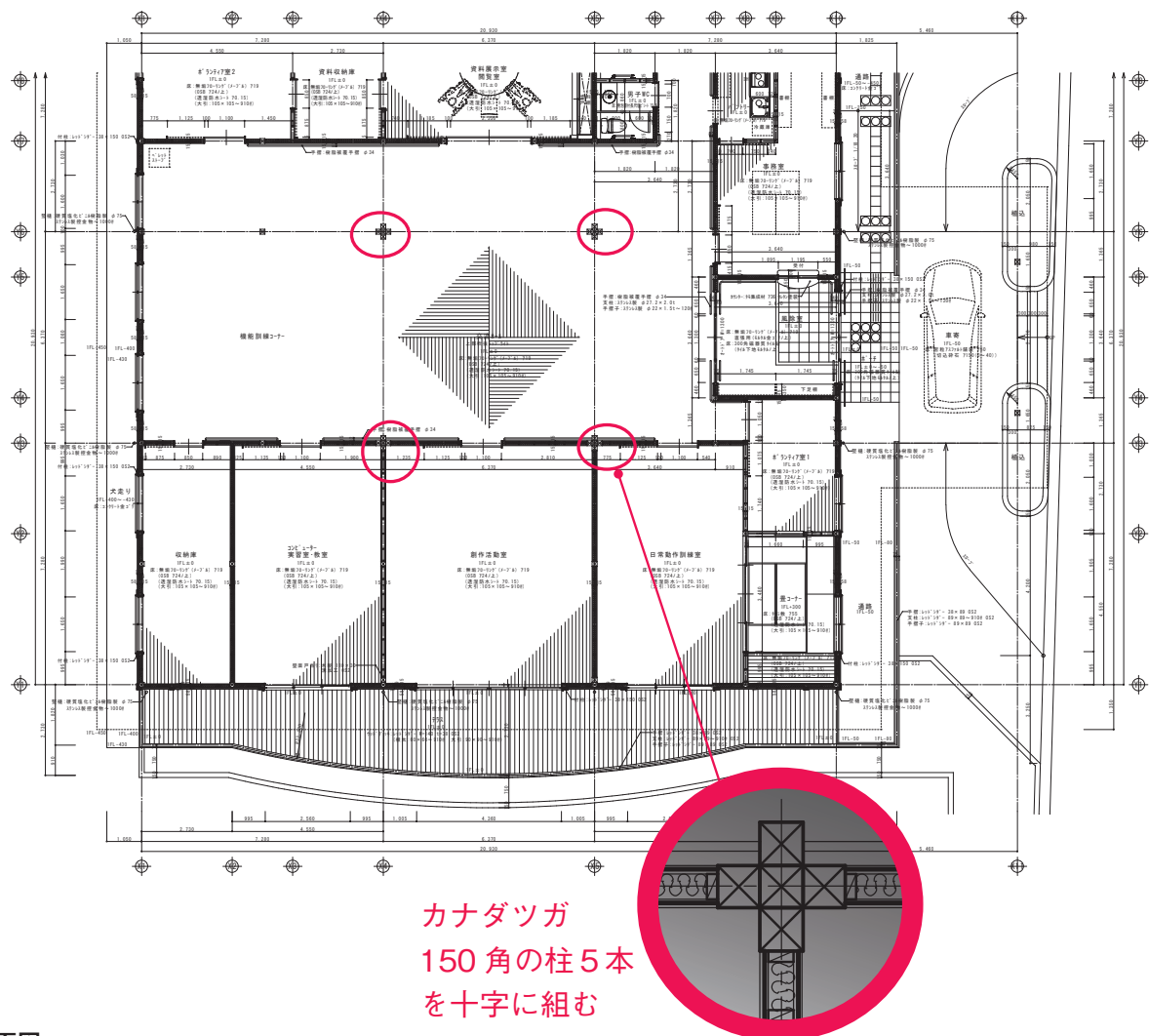
4月末に固まったプランによると、同敷地内には40名が滞在している既築の障害者宿泊施設があるが、震災によって被災し一部施設が建て直しを余儀なくされていた。また東日本大震災に伴う津波、福島第一原子力発電所の事故により避難生活を余儀なくされている障害児とその家族が増加。今では常駐の障害者40名、デイサービス希望者が一日平均で10〜20名、ヘルパー20〜30名となり、スペースの増設が求められていた。

松崎設計の松崎俊昌代表によると、障害児者福祉施設では、高齢者施設とは異なり、車椅子が不意に壁にぶつかって強い衝撃を与えることが多く、腰壁にシート材などの既製品を用いるとしだいに傷みが目立ってくる。そのため腰壁にはカナダツガの15ミリの板を採用、カナダツガが緩衝材の機能も果たすことになった。新しく建てられる施設には社会

カナダツガ 150 角の梁を放射状に

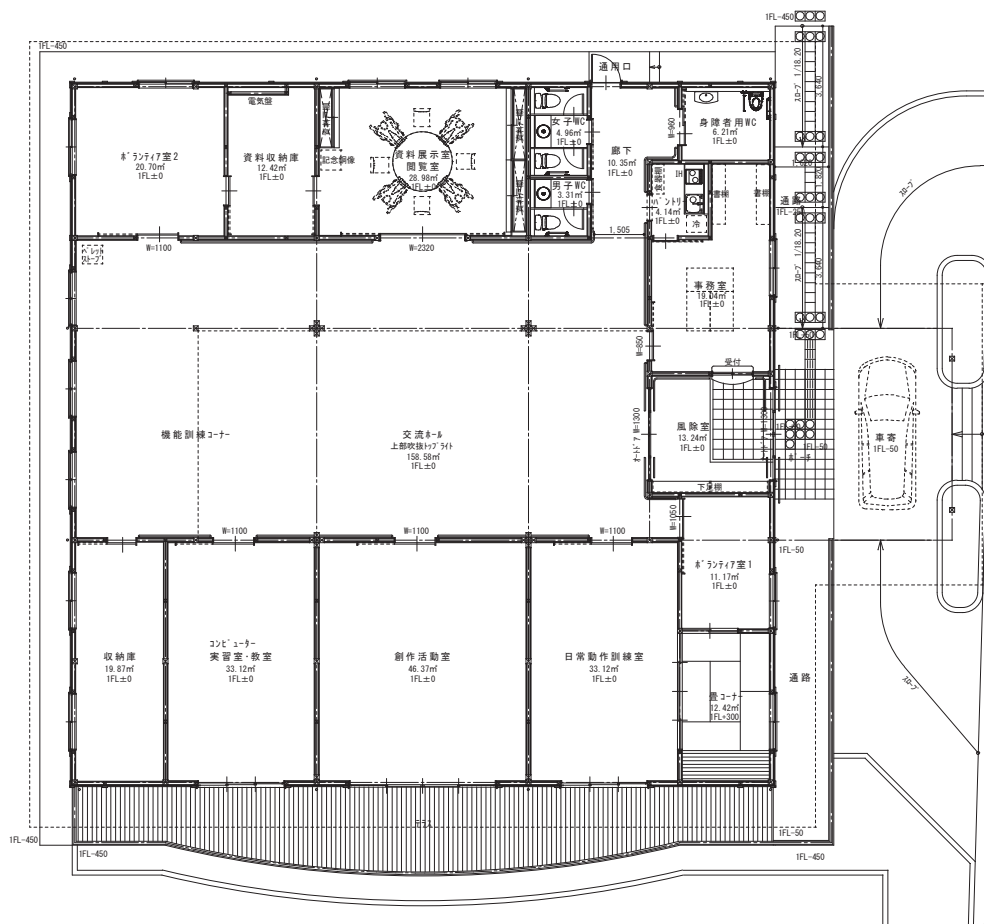


立面図 (株松崎設計)



カナダツガ
150 角の柱 5 本
を十字に組む

平面図 (株松崎設計)



平面図 (株松崎設計)

復帰のためのパソコン室、創作活動室、デイサービスの障害者のための日常動作訓練室や交流のためのコミュニティスペースがもうけられる。イメージパースを見ると正方

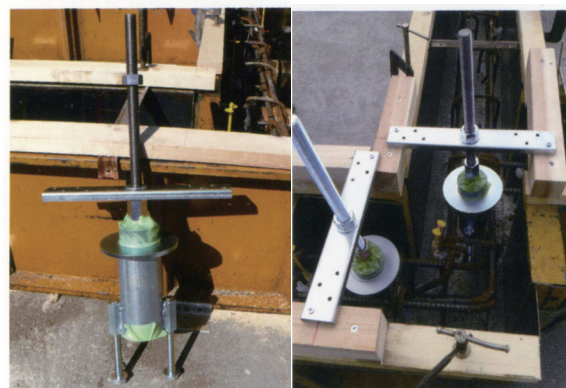
形の寄棟屋根の上にさらに吹き抜けのための棟を設けている。集会場の大空間を構成するため、カナダツガ150角高さ6mの製材5本を十字に組んで6・37mのスパンを飛

ばす。当初は集成材も考えたが、6mの製材をそのまま使うことになった。6mの5本の150角の上部が吹き抜けの先端となっている。出隅やサッシの間で150角があらわしとなっており、木造準耐火構造として燃えしろ設計となっている。

また地震対策として、基礎と土台の間に国産の新技术である吸震式アンカー「エレクトアンカー80」を採用した。従来型の免震装置や制震装置とは異なるシンプルな仕組みで、通常のアンカーボルトの施工と同時に基礎枠に取り付けて、設置後にコンクリートを流し込んで土台に固定することで、強い地震の衝撃を約30%吸収することができる。

ツーバイフォー材で在来工法

ツーバイフォー材を駆使した軸組工法という点でも特色がある。150角のカナダツガの柱を用いることで在来とツーバイフォーを混合、外壁の間仕切り下地にはSPFの2×4材、壁はSPFの間柱として石膏ボード15mmを両面張りとしている。垂木にはツーバイシックス(38×140)のSPF。床下地材にはOSB24mm、外壁まわりにはO



「エレクトアンカー80」の施工例 (神奈川県藤沢市)

SB9mm、屋根の野地板にはOSB12mmを採用している。床材にはカナダ産のメープルフロア19mm、車椅子用の広いウッドデッキと外壁にはウエスタンレッドシダーを採用。外壁は縦・横に羽目板張りによる張りなど様々な張り方をする。

構想から基本設計まで一年あまりかかったがプランが固まったことから6月に確認をとり7月に着工する。1月末の竣工予定であるが、いわき市では各分野の職人が不足しており、工期のずれ込みがすでに予想されており、「遅くとも年度内には完成させたい」とのこと。